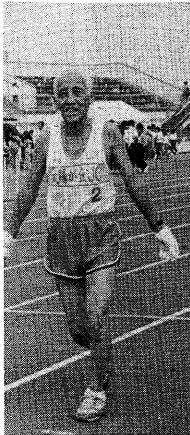




# きる”

## 「高齢化社会に関する意識・実態調査」 結果まとまる



充実した老後を送るには、健康の保持に努め、月10日太陽が丘、市民スポーツまつりで

現代は「人生80年」時代。こは、なんと4人に1人予想されています。その皆さんと一緒に取り組み、昨年8月に「高」を実施。このほど調

### 市民意識調査 結果から

高齢化社会には関心  
老後の心配は健康

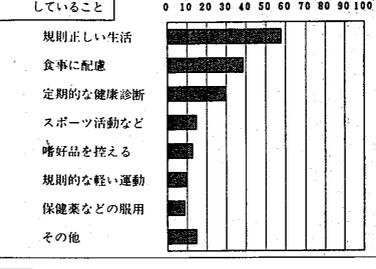
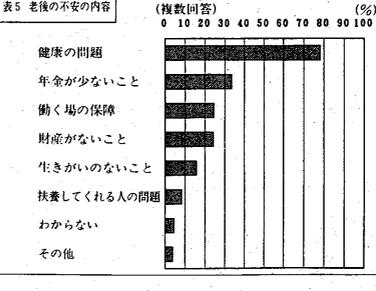
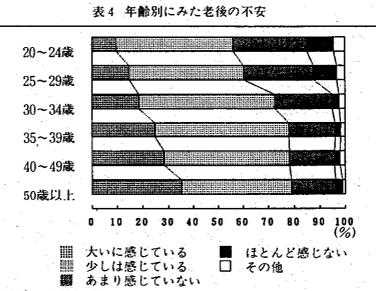
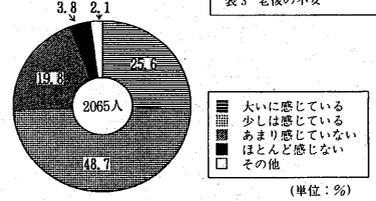
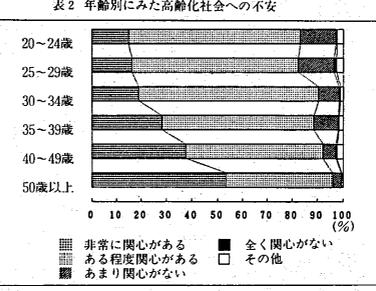
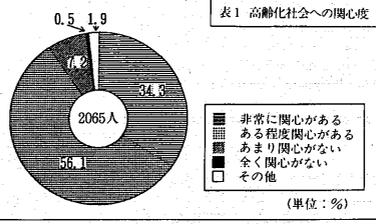
高齢化社会に関心のある人は半数を超えており、高齢化社会や自分の老後に対する意識はかなりの強さがあるといえます(表1・3参照)。また、その程度は年齢とともに高くなっており、老後が身近なものとなるにつれて、関心が高まってくる傾向がみられます(表2・4

健康のための積極的な活動は少ない  
しかし、それは日常生活の程度健康維持に努めている

現在の生きがいは「家族や子ども」「趣味活動や旅行」  
老後の生きがいは「趣味活動や旅行」

親子の暮らし方は「別居指向」  
今後の高齢化社会を考えたうえで、だれが高齢者への介護をするかという大きな問題となります。

地域活動は「全体的に低調」  
このように、地域活動については全体的に低調な傾向がみられ、地域コミュニティの形成が今後の課題となっています。



一方、老後の生活の内容については「健康も問題」を挙げたが最も多くみられ、健康が、今後の高齢化社会の在り方を考えるうえで、キーワードになっている(表5参照)。

「家族や子ども」  
「趣味活動や旅行」  
「別居指向」

今回の調査は、一般的な考え方としては、「常に働き続けたい」と答えた人が多く、「スポーツ」や「運動」といった積極的な健康維持の活動をしている人は少ない傾向があります。また、定期的な健康診断を受けている人も約30%にとどまり、全体的に、健康に対する対応は十分であるとはいえません(表6参照)。

現在の生きがいは「家族や子ども」「趣味活動や旅行」  
老後の生きがいは「趣味活動や旅行」

親子の暮らし方は「別居指向」  
今後の高齢化社会を考えたうえで、だれが高齢者への介護をするかという大きな問題となります。

地域活動は「全体的に低調」  
このように、地域活動については全体的に低調な傾向がみられ、地域コミュニティの形成が今後の課題となっています。

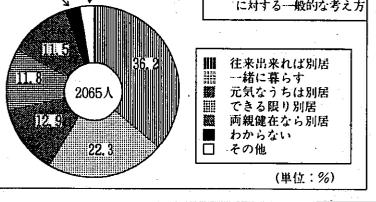
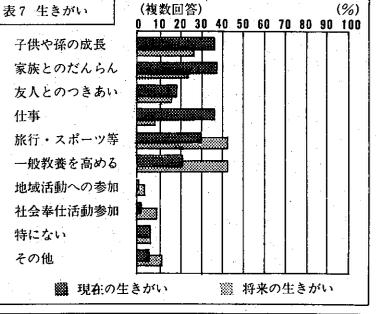
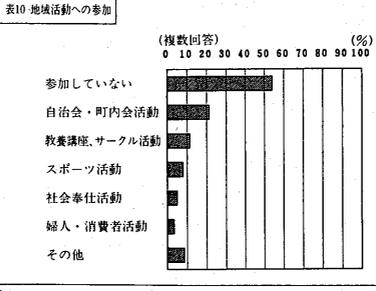
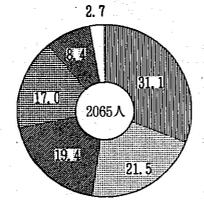
今回の調査は、一般的な考え方としては、「常に働き続けたい」と答えた人が多く、「スポーツ」や「運動」といった積極的な健康維持の活動をしている人は少ない傾向があります。また、定期的な健康診断を受けている人も約30%にとどまり、全体的に、健康に対する対応は十分であるとはいえません(表6参照)。

今回の調査は、一般的な考え方としては、「常に働き続けたい」と答えた人が多く、「スポーツ」や「運動」といった積極的な健康維持の活動をしている人は少ない傾向があります。また、定期的な健康診断を受けている人も約30%にとどまり、全体的に、健康に対する対応は十分であるとはいえません(表6参照)。

### 調査方法

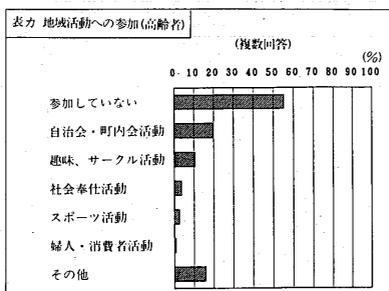
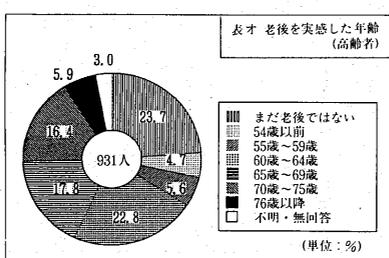
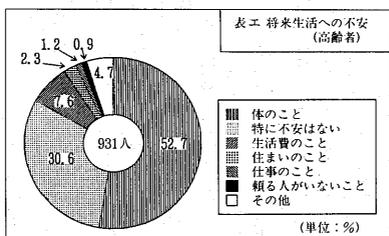
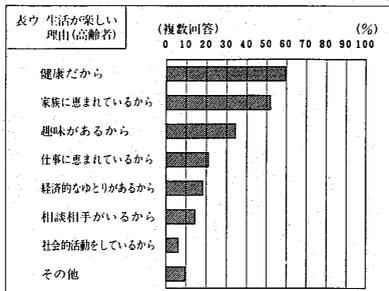
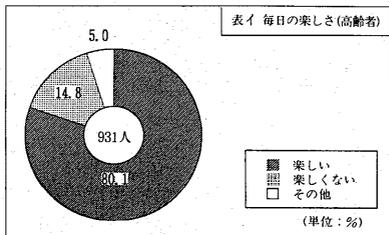
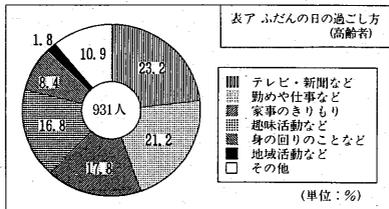
この調査は、市民の皆さんが「高齢化社会」について日ごろどのような意識や考え方を持っているかを率直に聞かせていただき、その結果を今後の市政に生かしていく目的で実施しました。

高齢化社会に対する意識と一口で言っても、年代によって生活様式は異なっており、社会環境にも違いが予想されます。従って、高齢化社会に対する考えや希望も変わってくるものと考えられます。こ



### 宇治市長寿社会 プラン

# 「人生80年時代」をどう生



## 高齢者実態調査 結果から

高齢者の生活は地域に密着

六十歳以上の高齢者対象に「あなたの過半の方を尋ねてみました。その結果、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を

「一方、勤めや商売など趣味・家族が楽しい生活を送るための大きな要因であることがわかりました(表ウ参照)。

「老後を楽しむためには健康・家族・趣味

「一方、これからの生活について特に不安がないと答えた人は、割合で言うと、残り八割を占めています。不安を感じている人は、四割を占めています。その中でも最も大きな不安要因は、体のこと(52.7%)です(表エ参照)。

「老後を実感した時期について尋ねたところ、最も多かったのが「まだ老後ではない」と答えた人で、三・七割に達しました(表オ参照)。

「高齢者の地域活動も全体的に低調

高齢者においても、地域活動への参加状況は調査対象していないと答えた人は五・五割を占めました(表カ参照)。



「人生50年」の時代は過ぎ去り、現国の調査によれば、今から35年後に人が高齢者である社会が到来すると市では、こうした将来について市と市では、住みよいまちづくりを進めるが「高齢化社会に関する意識・実態調査」の結果がまとまりましたので、お

方 法	おら い	高 齢 者 実 態 調 査
①調査対象 20歳以上60歳未満の市民 (住民基本台帳から無作為抽出) 有効回答数2971通 回収率69.5%	①高齢化への関心度 ②老後の生活に備える心構え ③高齢化社会に向けての行政への要望など	①高齢者の暮らしの実態 ②市民意識調査 ③高齢化社会に向けての行政への要望など
②調査期間 元年8月1日～19日	②調査対象 60歳以上の市民(住民基本台帳から無作為抽出) 有効回答数933通 回収率93.1%	④調査期間 元年8月1日～19日

## 明るく豊かな長寿社会を目指して



市では、高齢化社会に対応するため、宇治明星園に委託して今年1月に「デイ・サービスセンター」を開設。このほかにも様々な取り組みを進めています。

「ミニ」を第1歩

本市でも、今後、高齢化は急速に進展していくと考えられています。高齢化社会の到来は、平均寿命が伸び、一生の生活時間が長くなる一方で、労働時間が短くなるという状況が生まれるという見込みです。市では、市民の豊かな生活を実現するために、「宇治市長寿社会プラン」を策定し、これを推進していきます。

市では、市民の豊かな生活を実現するために、「宇治市長寿社会プラン」を策定し、これを推進していきます。

